

閑散駅舎の利活用による「鉄道の駅」の提案とその役割に関する研究

—いすみ鉄道を対象として—

Proposal of “STATION of RAILWAY“ by Utilizing Deserted Station and Evaluation of Effective Roles

—Case Study of Isumi Railway—

指導教授 轟 朝幸

6047 黒澤 雅英

1. はじめに

地方を中心に全国的に少子高齢化が進行し、人口減少が急速に進み、ローカル鉄道の利用者が減少して厳しい経営を強いられている。一方で、通学や車を持たない高齢者などの足として必要不可欠な交通手段であり、重要な役割を担っている。千葉県夷隅地域を走るいすみ鉄道も、そのひとつである(図-1参照)。いすみ鉄道を存続させるためにも、今後利用促進を図っていくことが重要となる。そこで本研究では、閑散駅舎を利活用して、「道の駅」のような拠点とする「鉄道の駅」を、いすみ鉄道を対象に提案する。また、その「鉄道の駅」の効果的な役割について明らかにする。

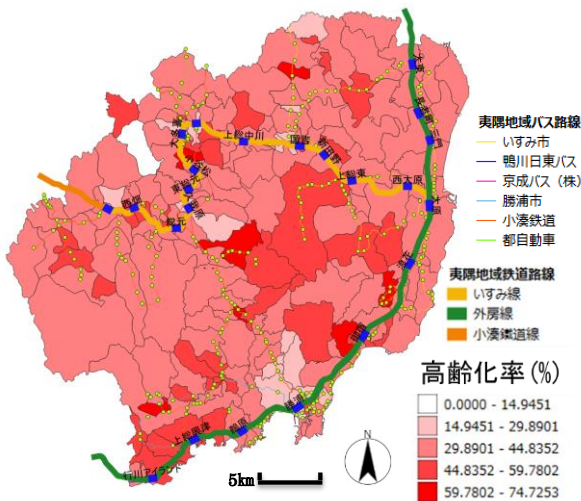


図-1 夷隅地域における高年齢化率の現状

2. 既存研究と本研究の位置づけ

大泉ら¹⁾は、道の駅について地域振興施設としての観点から設置現況を明らかにしている。「道の駅の設置」が「地域間交流の促進」に強い関連があることを示した。

ここでは、自動車利用者を対象とした道の駅に関する利用者の特性や設置による効果について明らかにしているが、鉄道駅舎併設型道の駅や「鉄道の駅」に必要な効果的な役割については定量化されていない。

そこで本研究では、いすみ鉄道で「鉄道の駅」を提案した際に、居住者と来訪者それぞれにとって重要で効果的な役割かを階層分析法(以下、AHP)により明らかにする。

3. 「鉄道の駅」について

提案する「鉄道の駅」とは、道路沿いにある「道の駅」の鉄道版としての役割を持つ施設である。「鉄道の駅」は6つの機能を持ち、鉄道利用者や非鉄道利用者(自家用車利用者など)、居住者や来訪者誰もが利用できる地域振興施設である(図-2参照)。鉄道利用者以外の方々にもコミュニティの場として駅を利用して頂ける環境を提供し、まちの賑わいを創出する役割を担う。ここでは、大多喜、夷隅、大原の各地域の中心駅である大多喜、国吉、大原の3駅にて、居住者向けには生活必需品の販売、来訪者向けにはいすみ鉄道グッズや地場産品などを販売することにより、交流の拡大を提案する(図-3参照)。

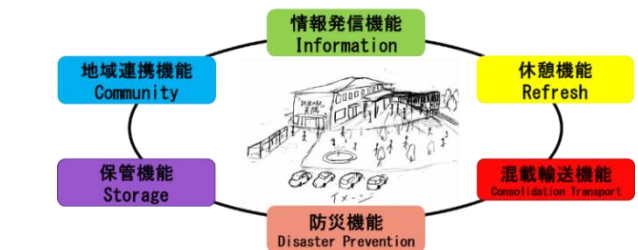


図-2 「鉄道の駅」のイメージと機能



図-3 いすみ鉄道路線図と「鉄道の駅」設置駅

4. 研究方法

本研究では、いすみ鉄道全国支店長サミットにおいて、出席者を対象にアンケート調査を実施する。その結果をもとに「鉄道の駅」の各評価項目の重要度を明らかにするためにAHP分析を行う。AHPとは、階層図を作成し、各項目について一対比較を行い、これをもとに効果や具体的な手法の重要度を定量化する手法である。

4.1 アンケート調査に関して

サミットには、いすみ鉄道の維持活性化に関心があ

り、積極的に様々な活動を行いたいという熱意ある方々が参加していた。そこで、回答にあたって、「鉄道の駅」を計画する有識者として全体を俯瞰する立場で、どの役割が効果的と思うかを居住者と来訪者それぞれの観点から回答して頂いた。以下、アンケートのもととなった「鉄道の駅」の役割を体系化した AHP 階層図を示す (図-4 参照)。

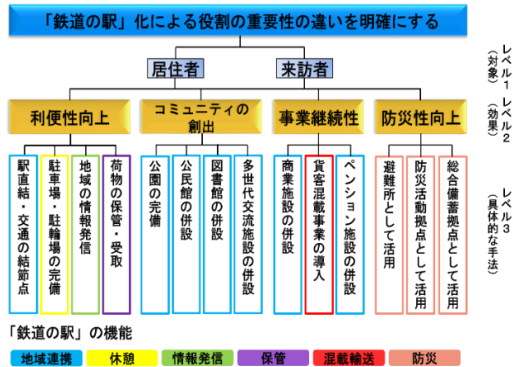


図-4 「鉄道の駅」版 AHP 階層図

4.2 調査結果の分析

居住者と来訪者それぞれにとって重要な評価基準 (レベル2, レベル3) と重要度の違いを全体や公共交通政策などの経験の有無から明確化した。

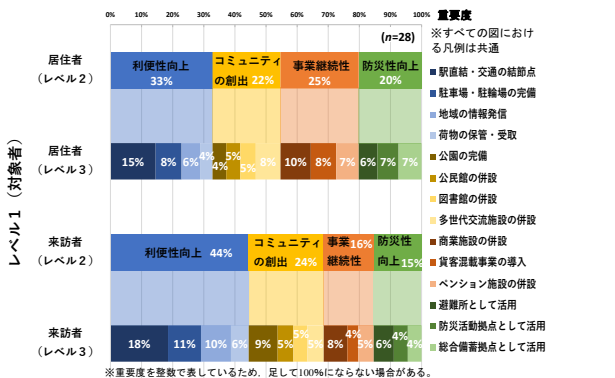


図-5 評価基準と重要度の違い (全体)

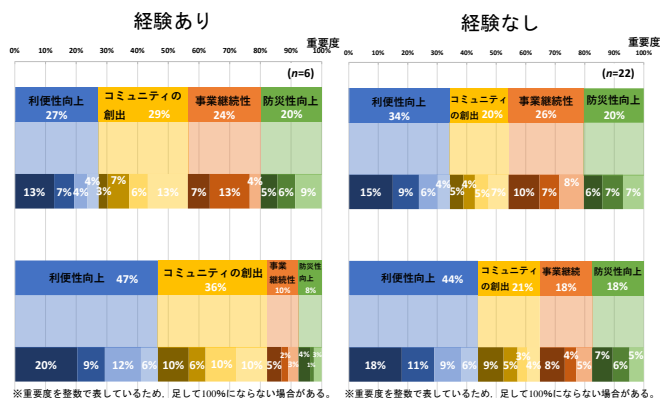


図-6 評価基準と重要度の違い (経験の有無)

図-5 から、居住者にとっては、利便性向上、事業継続性の順に重視されている。事業継続性の重要度が大きい理由として、旅客以外においても収入源を確保し、持続可能な事業にすることを望む傾向にあると考えら

れる。また、来訪者にとっては、利便性向上、コミュニティの創出の順に重視されている。コミュニティの創出の重要度が大きい理由として、居住者と来訪者の交流の場を設け、新たなコミュニティの創出につなげる効果を必要としていると考えられる。双方で一番重要度が大きい利便性向上については、いすみ鉄道の駅と「鉄道の駅」を直結するなど、誰もが立ち寄りやすい環境づくりが重要であるということが考えられる。

図-6 から、公共交通政策などの経験の無い方は、概ね全体の結果と等しい。そこで、以下、経験有りの方について詳細に考察する。

表-1 経験有りの方の重要な順番 (レベル2)

対象者	1番に重要	2番に重要	3番に重要	4番に重要
居住者	コミュニティの創出	利便性向上	事業継続性	防災性向上
来訪者	利便性向上	コミュニティの創出	事業継続性	防災性向上

表-1 に、経験有りの方の重要な項目の順番を抜き出した。居住者にとっては、コミュニティの創出の重要度が大きい。中でも多世代交流施設の併設が重要視されていることから、駅に人々が集まる環境づくりや地域福祉の貢献を重視する傾向にある。来訪者にとっては、利便性向上の重要度が大きい。路線バスなどの乗り継ぎを重視する傾向にあることが考えられる。

対象者を比べて差が大きい項目を示す (表-2 参照)。

表-2 差が大きい項目と考察

対象者	差が大きい項目	考察
居住者	貨客混載事業の導入	将来を見据え鉄道を存続させていくため、事業の継続性を重視している。
来訪者	地域の情報発信	観光等まちの広報としての情報を必要としている。
来訪者	公園の完備	来訪者が沿線に訪れた際、居住者との新たなコミュニティのきっかけの場になる。

5. おわりに

本研究では、閑散駅舎を利活用した「鉄道の駅」を提案し、AHP でその役割を分析した。その結果、役割の偏りを軽減させるために、1つの視点ではなく複数の視点から、「鉄道の駅」を構築することが望ましいということを示した。

今後の課題として、この「鉄道の駅」を構築した際のまちに与える波及効果や費用対効果を算出し、実社会のまちづくりに反映させることが挙げられる。

謝辞: 本研究を行うにあたり、いすみ鉄道株式会社代表取締役の古竹孝一社長をはじめサミットにてアンケートにご協力して頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

1) 大泉 剛, 安藤 昭, 佐々木 栄洋, 赤谷 隆一: 東北地方における道の駅の現況および地域振興効果の計測について, 日本都市計画学会学術研究論文集, Vol.34, pp.487-492, 1999.